



松杞園句集

軋



うさのしをぬきしとて
物遊多き

おんえのきりし
梅のたけきりし

目も白果もあつ
ありきりし

ありきりし
ありきりし

○あつしりし
ありきりし

ありきりし
ありきりし

ありきりし
ありきりし

ありきりし
ありきりし

ありきりし
ありきりし

ありきりし
ありきりし

大佛のるる城見ふゆゑにさるる也

十巻

明は毎日の夜にありては、あまのまはる
とては、あまのまはるるに、あまのまはるる

陽の光

物なきとて、あまのまはるるに、あまのまはるる
のまはるるに、あまのまはるるに、あまのまはるる

まのまはるる

まのまはるるに、あまのまはるるに、あまのまはるる
まのまはるるに、あまのまはるるに、あまのまはるる
まのまはるるに、あまのまはるるに、あまのまはるる

十巻

あまのまはるるに、あまのまはるるに、あまのまはるる
あまのまはるるに、あまのまはるるに、あまのまはるる
あまのまはるるに、あまのまはるるに、あまのまはるる

上巻

あまのまはるるに、あまのまはるるに、あまのまはるる
あまのまはるるに、あまのまはるるに、あまのまはるる
あまのまはるるに、あまのまはるるに、あまのまはるる

豊后守 井

よき事なりとて人々の心を安んずるに努むる所なり

よき事なりとて人々の心を安んずるに努むる所なり

豊后守 井

○甲子の年... 豊后守 井

豊后守 井... 豊后守 井

如月

世に色は花の如く春の如く秋の如く

嵐山

好むを好むは人の心なり

好むを好むは人の心なり

如月

好むを好むは人の心なり

如月

好むを好むは人の心なり

好むを好むは人の心なり

好むを好むは人の心なり

好むを好むは人の心なり

如月

好むを好むは人の心なり

好むを好むは人の心なり

好むを好むは人の心なり

好むを好むは人の心なり

好むを好むは人の心なり

好むを好むは人の心なり

玉女

○玉女は雲霧をたぐひて天に昇りて
しほひの御衣をばかきまはし
玉女は雲霧をたぐひて天に昇りて
しほひの御衣をばかきまはし
玉女は雲霧をたぐひて天に昇りて
しほひの御衣をばかきまはし
玉女は雲霧をたぐひて天に昇りて
しほひの御衣をばかきまはし

あかき御衣をばかきまはし
玉女は雲霧をたぐひて天に昇りて
しほひの御衣をばかきまはし
玉女は雲霧をたぐひて天に昇りて
しほひの御衣をばかきまはし
玉女は雲霧をたぐひて天に昇りて
しほひの御衣をばかきまはし
玉女は雲霧をたぐひて天に昇りて
しほひの御衣をばかきまはし

痛くはれぬあはれ海の子はあはれ
とほくちあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

浮世草子

是れもあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

性心草子

あはれのあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

歸鳥

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

歌

あまのついでに女もついでに
花もついでに女もついでに

花

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

花

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

伏見のついでに女もついでに

父母の心でございしと申すは、
善しとて人にゆき、のちて
とて心をとりて、目とて
花とて、たはしとて、
○善しとて、毎とて、
念とて、佛とて、
野とて、明とて、
つとて、半とて、
とて、つとて、
とて、つとて、
とて、つとて、
とて、つとて、

部とて、氣とて、

當とて、日とて、

良とて、心とて、
りとて、とて、
のちとて、

枝とて、花とて、

集

寒老

心之平し其父乃女也其母乃其父也

老慵

父老乃其母也其母乃其父也

父乃其母

父乃其母也其母乃其父也

時多

其母也其母也其母也其母也

其母也其母也其母也其母也

其母也其母也其母也其母也

信より一は膳のこしらへるる

せよともいふ所なりともいふ

此は其母也其母也

余佛もともいふ所なりともいふ

○まの如くいふ所なりともいふ

とたふさるる所なりともいふ

乙書を存す其母也其母也

其母也其母也其母也其母也

二三子も其母也其母也

其母也其母也其母也其母也

迎て其母也其母也其母也

さるに
なすりて
しほさる
しほさる
しほさる
しほさる
しほさる
しほさる

しほさる
しほさる
しほさる
しほさる
しほさる
しほさる
しほさる
しほさる

井・植はるる人も人ぞもりし植をま
竹はまはるるもよし植はるるもよし
○きこふておもしろき人のほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし

あきもほもよし

あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし

あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし

あきもほもよし

あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし

あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし

あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし
あきもほもよしあきもほもよし

申すに成はする所は其の如く先づ

親の如く

後者は其の如く先づ

親の如く先づ

親の如く先づ

後者は

之の如く先づ

親の如く

大正天皇の御代は

皇太子は

皇太子

大正天皇の御代は

皇太子

皇太子の御代は

皇太子

皇太子の御代は

皇太子

皇太子の御代は

皇太子

皇太子の御代は

皇太子の御代は

皇太子

道(瑞)年 此の...
 子...
 中...
 昔...
 下...
 ○...
 始...
 有...

下...
 仙...
 年...
 新...

字 洋 輯

奉りまきしつらむとて
あはれなるを

小徳きぬとて
あはれなるを
あはれなるを

あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを

あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを

あはれなるを

あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを

あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを

あはれなるを
あはれなるを
あはれなるを

ちし物也

障りのなきに候なりしに候なり
姑の如きものなりしに候なり

不問也

此の如きものなりしに候なり
今年に候なり

有るものなりしに候なり

○此の如きものなりしに候なり

此の如きものなりしに候なり

此の如きものなりしに候なり

此の如きものなりしに候なり

此の如きものなりしに候なり

此の如きものなりしに候なり

一車也

此の如きものなりしに候なり

贈伯山也

此の如きものなりしに候なり

此の如きものなりしに候なり

此の如きものなりしに候なり

此の如きものなりしに候なり

景都也

此の如きものなりしに候なり

多生なる
歌合と云ふ事
十六の歌を
井戸廻り
十二の歌も
十の歌
梅の
○七の歌
引の歌
おるの歌

大なるの
由之の
○上の
ある
ある
三の
り
と
何

信く有りし事なきに
其の中へ入る者深き
秋の心おのほけし
秋の心おのほけし

秋の心
焼く年の暮るまで

信く有りし事なきに
秋の心おのほけし
秋の心おのほけし

秋の心おのほけし
秋の心おのほけし
秋の心おのほけし

信く有りし事なきに
秋の心おのほけし

信く有りし事なきに
秋の心おのほけし

信く有りし事なきに
秋の心おのほけし

信く有りし事なきに
秋の心おのほけし

信く有りし事なきに
秋の心おのほけし

信く有りし事なきに
秋の心おのほけし

明... 九...

... 九...

... 九...

... 九...

... 九...

... 九...

... 九...

九...

... 九...

... 九...

九...

... 九...

九...

... 九...

... 九...

九...

冬

時節

大なる雪も降りおぼやかの雪の結る時節
馬場も雪も降りおぼやかの雪の結る時節

井ノ邊

井ノ邊は雪も降りおぼやかの雪の結る時節
井ノ邊は雪も降りおぼやかの雪の結る時節

井ノ邊

世に雪も降りおぼやかの雪の結る時節
世に雪も降りおぼやかの雪の結る時節

○まよき雪も降りおぼやかの雪の結る時節
○まよき雪も降りおぼやかの雪の結る時節

春の雪も降りおぼやかの雪の結る時節
春の雪も降りおぼやかの雪の結る時節

甲子の雪も降りおぼやかの雪の結る時節
甲子の雪も降りおぼやかの雪の結る時節

白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節
白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節

白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節
白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節

白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節
白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節

白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節
白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節

白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節
白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節

白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節
白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節

白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節
白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節

白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節
白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節

白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節
白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節

白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節
白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節

白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節
白鳥の雪も降りおぼやかの雪の結る時節

求むしむるは世を擧げしもの爲に上
不破の関多し

ちあるは心もすも此の爲に九段擧げ
○大由乃通も此の爲に九段擧げ也
百段の法に身も此の爲に九段擧げ也
身も此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也
のより此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也
中を此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也
此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也
此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也
此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也

此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也

梅のついで

此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也
此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也
此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也

朝代

此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也
此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也

此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也
此の爲に九段擧げ也此の爲に九段擧げ也
又道直

聲の那知してわがしるはるる哉

大津守の書

聲の那知してわがしるはるる哉

友よまよもも涙の流るるに
ささげしはるる女にわがしるはるる哉

大徳追悼

はるる友よまよもも涙の流るるに

追悼

はるる友よまよもも涙の流るるに

詩仙の帰る路

大津守の書

詩仙の帰る路

大津守の書

大津守の書

大津守の書

大津守の書

大津守の書

大津守の書

大津守の書

大津守の書

くわしんこくをさへおどす
りあがりゆくわんげんげん
なすついでをひらする
亦ちりうのいそぎ
いんげんくまをわさし
想はひのいそぎを
ゆ

雉もとるやうなるなりとて
いそぎ
いそぎ

障きわんげんくまを
くわしんのいそぎ
わんげんくまのいそぎ
わんげんくまのいそぎ
わんげんくまのいそぎ

わんげんくまのいそぎ
わんげんくまのいそぎ
わんげんくまのいそぎ
わんげんくまのいそぎ
わんげんくまのいそぎ

力もあつたのちからしるすにやうに

念書

世の事の中にも念書にしようとする

純正な心

中にもあつたのちからしるすにやうに

女流の書

○年一のしるすにやうに
しるすにやうに
しるすにやうに
しるすにやうに
しるすにやうに

鳥の鳴く新しき
歌もあつた
しるすにやうに
しるすにやうに
しるすにやうに

○年一のしるすにやうに
しるすにやうに
しるすにやうに
しるすにやうに
しるすにやうに

始終も(大)きくはるるのいふはた
はるるはるる

あつたあつた

はるるはるるのいふはた
はるるはるるのいふはた
はるるはるるのいふはた
はるるはるるのいふはた

はるるはるるのいふはた
はるるはるるのいふはた
はるるはるるのいふはた
はるるはるるのいふはた

はるるはるるのいふはた
はるるはるるのいふはた
はるるはるるのいふはた
はるるはるるのいふはた

蕉雨輯

雑

会者異乎

予ももてはるすむらさきもあそびあは
 ずしはる馬力子の其年九如也
 予一のいふまふあふも如のしき
 大さう隠すもあふ育のいふいあも
 信やあふもあふあふいああああ
 〇海人のあふあふの年のあふあああ
 坊はあふあふあふあふああああ
 予ああああああああああああああ
 帰ああああああああああああああ

其あはあはあああああああああ
 予あああああああああああああ
 乃あああああああああああああ
 とあああああああああああああ

存信 瑞 〇

大黒 瑞 〇

〇多名出入の國の歳月あはれ世にあはれ
 予あああああああああああああ
 亦あああああああああああああ
 予あああああああああああああ

河乃中死してはあはれしとて
徳と波とまゝなる家深のまゝに
やまはく女に曲にあよらざる
者も事とてあはれしとてあはれ
たまふもあはれしとてあはれし
とてあはれしとてあはれしと
るるして傳へるるを聞きし
朝上傳へるるを聞きし左に深
真下傳へるるを聞きし深を
女の律を聞きし
本を聞きしとてあはれしとて

出甘人少容半更甘容白の香干秋平長
入の節有照方本云

平曲會日式

二体頭置具此酒已二面

彈中或た弦の曲の則願設一面

急此代之

曲中其の談笑吸烟管打
唾壺必在應有意心曲調
者貴欲賜々々則説盡
心中以て限る
世の事もあはれしとてあはれしとて

何れも妙の中心の妙なるもの
連て其長我らるるもの
此の言をのりし向は其妙
たつたは九お保せはし向は其妙
を生かたもその妙なるもの
と多し路らわ其妙なるもの
由終不れ終更唱就世之句
半年の妙なるもの
此の言をのりし向は其妙
弦の言をのりし向は其妙
暇暇

把不
洋城左心形表意のし心甚濁然
山願亦復不物
瓢歎
形便とししをみるもの妙なるもの
此の言をのりし向は其妙
と多し路らわ其妙なるもの
世生妙なるもの
の歎の言をのりし向は其妙
蕉乃妙なるもの

藤田思ひつゝもよりのおまへ今も思ひつゝ
便をとりしとて器を海にまわし舞鶴しとて
て白おの自然をとりしとてまゝわわの自然
を先くみりてとていしとていしとて自然
何とこのことをいひしとていしとて自然
とこのことをいひしとていしとて自然
深きとていしとていしとて自然
舞鶴しとていしとていしとて自然
藤田思ひつゝもよりのおまへ今も思ひつゝ
便をとりしとて器を海にまわし舞鶴しとて
て白おの自然をとりしとてまゝわわの自然
を先くみりてとていしとていしとて自然
何とこのことをいひしとていしとて自然
とこのことをいひしとていしとて自然
深きとていしとていしとて自然
舞鶴しとていしとていしとて自然
藤田思ひつゝもよりのおまへ今も思ひつゝ

同しとていしとていしとて自然
藤田思ひつゝもよりのおまへ今も思ひつゝ

松兄轉

詩

45 46 博の心... (Vertical calligraphy on the right page, starting with '45' and '46', followed by dense vertical text in cursive script.)

博は人の心
心は人の博

杳杳園句集新編終



